

## Listening 過程における metacognitive awareness に関する研究 日本人中・高校生の認識を中心として

広島大学附属中・高等学校 石原 義文

### 1. 研究の目的

読解過程における学習者のメタ認知能力（読解のストラテジーに対する認識）の研究から、(1) メタ認知能力が読解において果たす重要な役割、(2) Good Readerが状況に応じて自分の使うストラテジーを見つめ、適当なものに修正していくこと、(3) Good Readerと Poor Readerではストラテジーに対する認識に相違があることなどが、報告されている(Block 1986, Barnett 1988, Baker and Brown 1989, Carrell 1989). しかし読解過程に比べて、聴解過程におけるメタ認知能力の研究は、まだ多くの調査の余地を残していると言える(Rubin 1994)

先行研究を概観すれば[Murphy (1985), O'Malley et al (1989), Vandergrift (1992)] (1) 主に ESL が対象になっている (2) EFL が対象としても、被験者が大学生レベルに限られている (3) 学習者のある一段階におけるメタ認知能力・ストラテジー選択の違いを実証したものである、と言えよう。ある一段階の姿ではなく、学習者の意識がどのように形成されてくるかが明らかになれば、どの時点でどのような指導を施すべきかを決定するのにも資すると思われる。この意味で、本研究では、Listening におけるメタ認知能力が、英語の学習を始めて1年を経た中学2年生から、高校3年生までの5学年中に、成績の上位者と下位者の間にどのような違いがあるのか、また、学習経験年数によってその認識がどのように形成され、発達していくかを調査し、どのように指導に生かすかを提案することに目標を置いている。

### 2. Method

- (1) 被調査者：国立大学附属中・高等学校、中学2年生～高校3年生まで各学年80名ずつの計400名（うち有効データは379）
- (2) 題材：英語の聴解力を調べるために、多肢選択式テストとメタ認知能力についての質問紙を用いた。テストは難易度を考慮し、中学2年英検4級、中学3年英検3級、高校1年CELT、高校2年CELT、高校3年生はTOEFLを用いた。Listening におけるメタ認知能力を問う質問紙は、筆者が検索した限りでは存在しない。今後Reading におけるメタ認知能力との比較を行う予定であるため、Carrell (1989)の質問項目に対応するように、Listening におけるGoh (1997)の metacognitive strategies subcategories をあてはめて筆者が作成したもの(Appendix)を用いた。
- (3) はじめにListening テストを20分程度行い、その後に質問紙の記入を行った。  
Carrell (1989)の質問紙を参考に、本質問紙では以下のように分類項目を設定した。
  - 1) Confidence (項目No.1～9 Listening の際の自分の能力を判断する)
  - 2) Difficulty (項目No.10～14, No.39～45 Listening を難しくさせる要素)
  - 3) Repair (項目No.18～23 Repair strategies に対する自分の意識を判断する)

- 4) Effective (項目No.24~38 Listening を有効に行うために, 自分が意識していること)  
 5) Good Listener (項目No.46~53 自分にとって好ましいと思われる効果的な要素)

### 3. Research Hypotheses and Data Analysis

調査の仮説として次の項目を設定した。

- (1) 英語学習経験年数によって, メタ認知能力は段階的に発達してくる。  
 (2) 学習経験年数によるメタ認知能力の変化は, 上位群と下位群では異なる。

Data Analysis は質問紙を集計し, 各項目の学年平均から分散分析を行い, 5%水準で有意差を判断する。有意差が生じたものについては, 学年平均から推移を判断する。また上位群と下位群は, それぞれの学年の読解テストの上位20名, 下位20名を選んだ。

### 4. 結果と考察

#### (1) 学年ごとの推移

TABLE 1 は, 質問紙の各項目についての各学年平均の差の分散分析表である (有意差の生じたもののみ)。

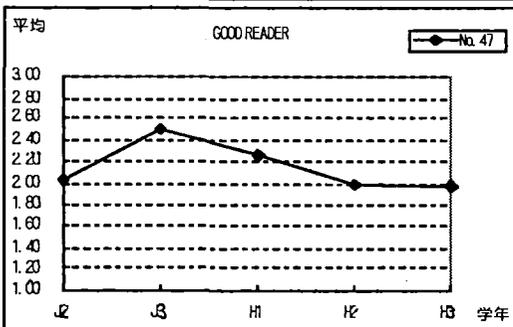
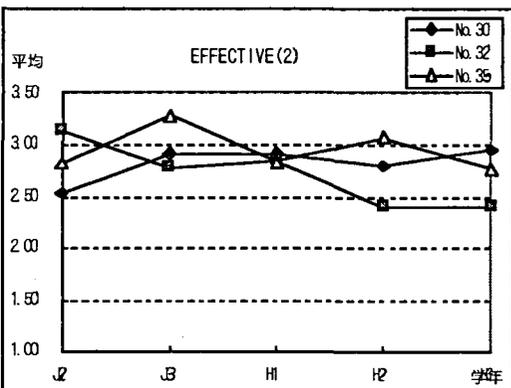
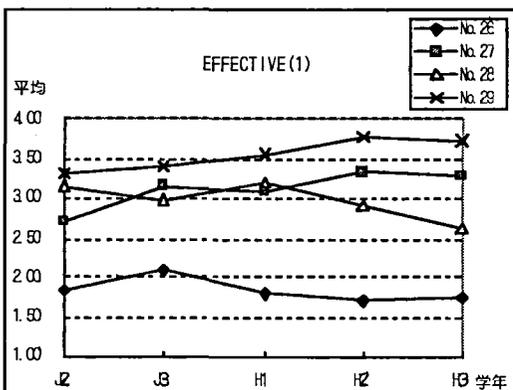
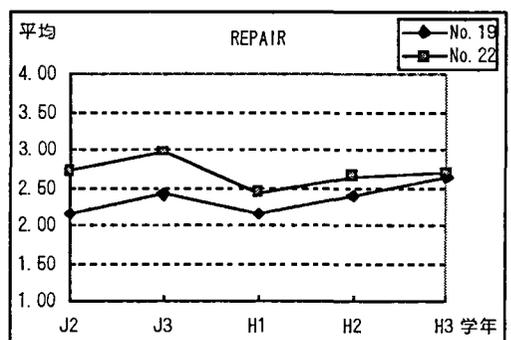
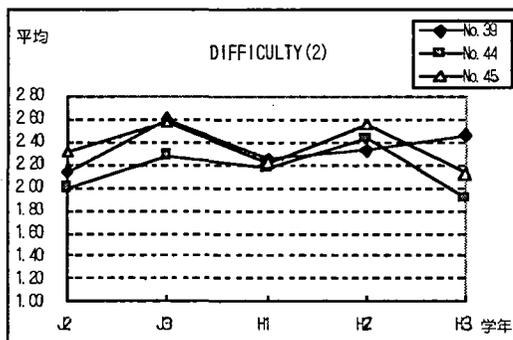
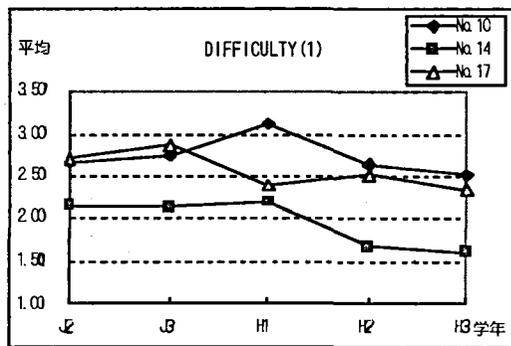
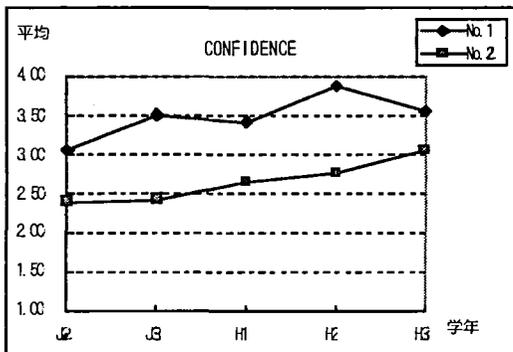
TABLE 1 分散分析表 全体の比較(ANOVA)

要因	偏差平方和	自由度	平均平方	F 値	判定	平均値の差の検定
No.1	29.64	4	7.41	6.77	**	J2-J3**, J2-H1*, J2-H2**, J2-H3**, J3-H2*, H1-H2**
No.2	21.52	4	5.38	2.67	*	J2-H3**, J3-H3**
No.10	15.04	4	3.76	3.22	*	J2-H1**, J3-H1*, H1-H2**, H1-H3**
No.14	21.82	4	5.46	5.78	**	J2-H2**, J2-H3**, J3-H2**, J3-H3**, H1-H2**, H1-H3**
No.17	12.69	4	3.17	2.92	*	J3-H1**, J3-H2*, J3-H3**
No.19	12.57	4	3.14	3.26	*	J2-H3**, H1-H3**
No.22	10.51	4	2.63	2.93	*	J3-H1**, J3-H2*
No.26	6.89	4	1.72	2.72	*	J2-J3*, J3-H1*, J3-H2**, J3-H3*
No.27	19.34	4	4.83	4.86	**	J2-J3**, J2-H1*, J2-H2**, J2-H3**
No.28	12.99	4	3.25	3.13	*	J2-H3**, J3-H3*, H1-H3**
No.29	13.36	4	3.34	3.27	*	J2-H2**, J2-H3**, J3-H2*
No.30	10.47	4	2.62	2.92	*	J2-J3**, J2-H1**, J2-H2*, J2-H3**
No.32	25.22	4	6.31	5.87	**	J2-H2**, J2-H3**, J3-H2*, J3-H3*, H1-H2**, H1-H3*
No.35	15.73	4	3.93	3.60	**	J2-J3**, J3-H1**, J3-H3**
No.39	11.77	4	2.94	3.10	*	J2-J3**, J2-H3*, J3-H1**
No.44	13.19	4	3.30	3.37	*	J2-H2**, J3-H3*, H2-H3**
No.45	12.87	4	3.22	3.46	**	J3-H1*, J3-H3**, H1-H2*, H2-H3*
No.47	14.55	4	3.64	3.87	**	J2-J3, J3-H1, J3-H3**

\*p<0.05 \*\*p<0.01

上記の有意差のある項目について, 分類項目別にまとめて学年ごとの平均をグラフ化したのが FIGURE 1 である。

FIGURE 1: 縦軸が平均点 1=Quite agree 2=agree 3=Neutral 4=disagree 5=quite disagree, 横軸は学年



(a) Confidence の項目について

平均値から判断すると、「聞こえた単語から意味を頭の中でイメージし、わかった単語から意

味を自分で作り直す」が、「次の内容の予測, 主要部分と詳説部分の区別等は何とも言い兼ねる」という姿が浮かび上がる。ただし, 学年を経るに従って, つづりそのものや, 英語を日本語に直すという行動は減ってきている。

(b) Difficulty の項目について

顕著に現れているのは, No.14「集中力が切れたら分からない」, No.15「意味を考えていたら次の部分を聞き逃す」, No.39「単語の発音」, No.40「単語の意味」, No.41「単語のつながりがひとまとまりに聞こえる」, No.44「文章全体の意味をとらえること」, No.45「文章全体の論の進め方の把握」である。学年を経るに従ってNo.14「集中力が切れたら分からない」, No.17「英語がひとまとまりに聞こえて文の形がつかめない」, No.45「論の進め方がわからない」という方向へ進んでいく。これは聞く内容が複雑になって bottom-up も top-down も困難になってきていることを示している。

(c) Repair の項目について

全体ではNo.18, 20「聞き続けて解明を期待し, 注意して聞く」, No.19「文脈から単語の意味を推測する」, No.22「集中力の回復」という行動を取ろうとする。学年を経るに従ってNo.19「文脈から単語の意味を推測する」は徐々に重要視しなくなっている。個々の単語や句レベルのことより, 全体を見渡そうとする姿勢が見られる。

(d) Effective の項目について

平均値から判断すると, 全体ではNo.25「個々の単語の意味を把握すること」, No.26「文章全体の意味を把握」, No.34「つなぎの言葉に着目」, No.36「意味の推測」という行動について効果的と思っている。学年を経るに従って, No.26「文章全体の意味を把握」, No.28「スキーマ」, No.32「知らない単語は無視」について賛成の方向に進んでいる。一方No.27「個々の文の文法構造の把握」, No.29「あとで辞書を引くため単語を覚えておく」, No.30「内容の詳しい部分に着目」については, 反対の方向に進んでいる。top-down 的な情報処理の姿勢が見られる。

(e) Good Listener の項目について

理想的な聞き方に対する意識は, 学年間で差はほとんどなく, すべての項目について賛成の意識を持っている。

2) 上位群と下位群の比較

TABLE2 上位群と下位群の平均の差 t-検定の結果 (有意差のあるもののみ列挙)

項目	上位群 平均値	下位群 平均値	t (0.05/2)	項目	上位群 平均値	下位群 平均値	t (0.05/2)
No.1	3.74	3.25	3.238**	No.19	2.15	2.58	3.127**
No.4	2.38	2.98	3.589***	No.20	2.18	2.61	3.083**
No.5	3.03	3.67	4.019***	No.21	3.29	2.83	3.256**
No.6	2.94	3.44	3.367***	No.22	2.49	2.86	2.821**
No.7	2.84	3.26	2.777**	No.23	4.09	3.43	4.420***
No.8	2.89	3.26	2.381*	No.31	2.60	2.90	2.206*
No.9	2.52	2.88	2.451*	No.40	2.15	1.92	1.944*
No.11	2.62	2.27	2.531*	No.41	2.39	2.04	2.531*
No.12	2.64	2.29	2.360*	No.42	2.62	2.18	3.280***
No.13	3.02	2.47	3.750***	No.43	3.04	2.78	2.050*
No.15	2.10	1.76	2.750**	No.46	1.94	1.68	2.192*
No.16	2.71	2.33	2.838**	No.50	2.22	1.96	2.002*
No.17	2.84	2.46	2.619**				

\*p<0.05 \*\*p<0.01 \*\*\*p<0.001

(a) Confidence の項目について

差が見られたのは、次の7項目である。No.1「つづりを思い浮かべる」、No.4「頭の中でイメージ化する」、No.5「次の予測」、No.6「主要部分と詳細部分との区別」、No.7「既出内容と新出内容との関係把握」、No.8「スキーマの利用」、No.9「理解事項と理解できていない事項との区別」。この中では、No.1のみ上位者が下位者より反対の意向が強く、あとは上位者がすべて下位者より賛成の意向が強い。

(b) Difficulty の項目について

No.11「聞いても意味を思い出せない」、No.12「文字で見るとわかるが、聞くとわからない」、No.13「個々の単語は分かるが全体はわからない」、No.15「意味を考えて次の部分を聞き逃してしまう」、No.16「意味のかたまりを思い出せない」、No.17「ひとまとまりに聞こえて形がつかめない」、No.40「単語の意味」、No.41「ひとかたまりになって聞こえる」、No.42「文法構造を把握すること」、No.43「スキーマの利用」に差が見られる。いずれも下位群は上位群よりも上記の項目について困難さを認めていることがわかる。

(c) Repair の項目について

No.19「文脈から語句の意味の推測」、No.20「すぐつぎの箇所を注意して聞く」、No.21「わからない場所を考えてあとは何となく聞いてしまう」、No.22「集中力を戻す」、No.23「あきらめる」において差が見られる。No.19,20,22については上位者の方が賛成の意向を示し、No.21,23については下位者が賛成の意向を示している。

(d) Effective の項目について

No.31「文章全体の論の進め方」のみ差が見られる。上位者は下位者より重要視していることがわかる。

(e) Good Listener の項目に関して

No.46「単語の意味がわかる」、No.50「文法構造の理解」では、下位者の方が重要視している。

以上の結果から、上位者は効果的な聞き方はtop-down style であるという認識を深めているが、下位者はこの面の発達は見られないことが判断できる。上位者と下位者の相違はEffective, Good Listenerの項目についてはあまり差が見られないが、Confidence, Difficulty, Repairの項目において、大きな違いが見られる。このことは下位者は理想的な読み方は意識としてわかっているが、その具体的な方策について認識が甘いという姿が浮かんでくる。

(3) 各学年の上位群間・下位群間の比較

TABLE3：上位・下位群の学年間の差の比較（有意差のあるもののみ）

分散分析表（上位群の比較）						
要因	偏差平方和	自由度	平均平方	F 値	判定	平均値の差の検定
No. 1	12.94	4	3.24	3.403	*	J2-J3**, J2-H1*, J2-H2**
No. 10	11.50	4	2.88	2.985	*	J2-H1**, H1-H3**
No. 11	16.86	4	4.21	5.221	**	J2-J3*, J2-H2**, J2-H3**, J3-H3*, H1-H3**
No. 20	8.16	4	2.04	3.000	*	J2-H1*, J2-H3**, J3-H3*
No. 43	9.34	4	2.34	4.770	**	J2-J3*, J2-H3*, J3-H3*, H1-H3**, H2-H3**
No. 44	10.80	4	2.70	3.458	*	J3-H3*, H1-H2*, H2-H3**
No. 45	7.64	4	1.91	2.543	*	J3-H3*, J3-H3*, H2-H3**

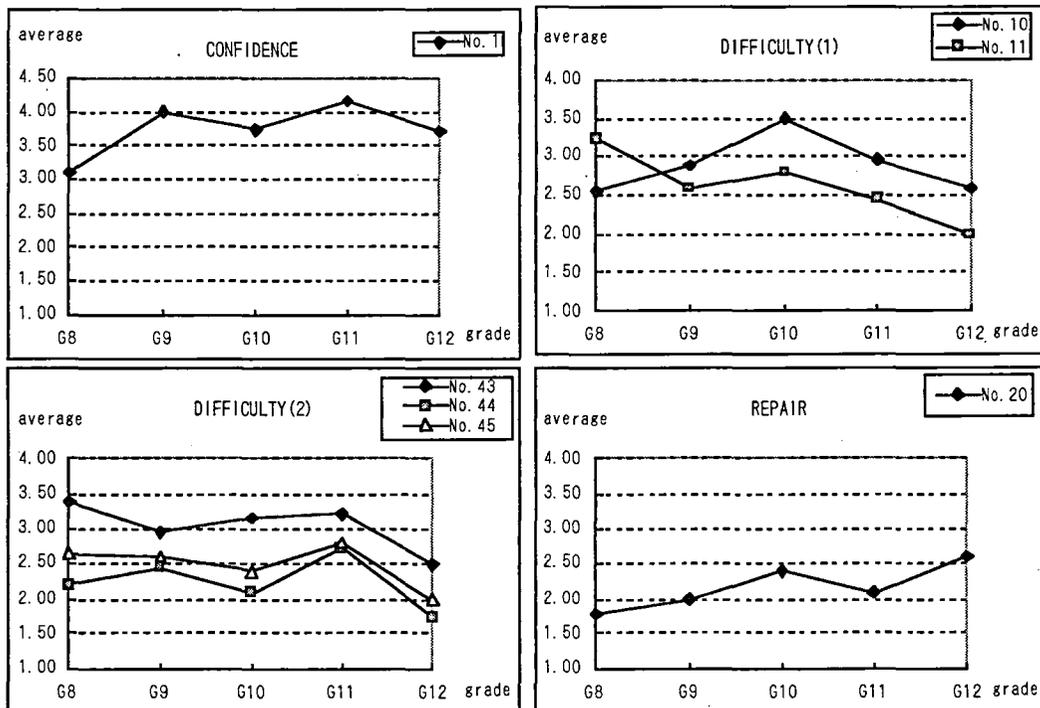
分散分析表 (下位群の比較)

要因	偏差平方和	自由度	平均平方	F 値	判定	平均値の差の検定
No. 32	17.74	4	4.44	4.102	**	J2-J3*, J2-H2**, J2-H3**, H1-H2*
No. 35	12.98	4	3.25	2.695	*	J2-J3**, J3-H1**

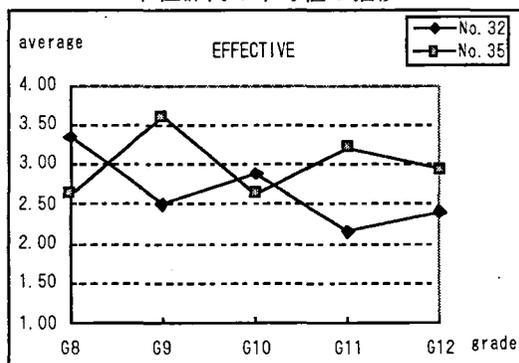
\*p<0.05 \*\*p<0.01

FIGURE 2 : (縦軸が平均点1=Quite agree 2=agree 3=Neutral 4=disagree 5=quite disagree, 横軸は学年)

上位群間の平均値の推移



下位群間の平均値の推移



上位者が学年進行と共に発達させる意識は以下の通りである。No.20 (Repair)「わからないすぐ次の箇所を注意して聞く」が反対の方向に、No.11 (Difficulty)「音になじみがあっても意味を思い出すのが遅い」、No.44, 45 (Difficulty)「文章全体の意味をとらえる・文章全体の論の進め方をとらえる」は賛成の方向に向かっている。これはtop-down的情報処理の傾向が強まっていることを示している。一方下位者では、No.33(Effective)「メモを取る」、が学年に従って賛成の意向が強まっている。

## V. 結論

### (1) Summary

日本人英語学習者（中学2年～高校3年）のmetacognitive awareness (Listening Strategies) に対する認識を調査した結果、学習経験年数に従って発達をとげる事項がある。それはtop-down style を好ましいと感じるようになるということであるが、同時にその困難さを認識していく。上位者は効果的な聞き方はtop-down style であるという認識を深めていく。一方下位者には、この面の発達は見られない。上位者と下位者の相違はEffective, Good Listenerの項目については、あまり見られないが、Confidence, Difficulty, Repairの項目において、大きな違いが見られる。このことから下位者は、理想的な読み方がどんなものかわかっているが、その具体的な方策について認識が甘いという姿が浮かんでくる。

### (2) 指導への示唆

学習経験年数によって、学習者はtop-down style の必要性を認識しているが、その実際の応用には（特に下位の学習者）至っていない。

効果的に聞くためのstrategyの認識が学習経験年数にしたがって、順調に発達していることは望ましい傾向であるが、下位者はこの面の発達がほとんど見られない。また、上位者と比較して顕著になった「効果的な聞き方に対する認識は変わらないのに、Difficulty, Repairの項目において差がある」という事実から、bottom-up からの指導と、listening の process をひとつひとつ指導していきなが意識を高めていくことが必要と思われる。

困難さを感じる項目として、No.44「文章全体の意味をとらえること」、No.45「文章全体がどんな論の進め方をするか把握すること」は学年を経てもますます難化してきている。概要をとらえる指導は、常に意識的に導入することが必要なことを、あらためて感じさせる。

### (3) 今後の課題

調査を行った学校が一つであったこと、各学年の調査人数が少数であることから、一般化が難しいと思われる。複数の学校のデータの収集処理が必要である。

Metacognitive awareness に上位者と下位者の相違があることがわかったが、学習者が自分の持っている認識力を、実際に読みの過程の中で、実行に移しているかどうかは疑問である。学習者の真実の姿を把握するために、質問紙だけではなく、Interview, Diary, Think-aloud など、他の形態の調査方法を同時に並行することが必要である。

Metacognitive な面だけではなく、実際にstrategiesをどのように教えていくか、その有効性と、具体化の検証が望ましい

Reading おける metacognitive awareness の調査結果とを比較し、Reading とListening の類似点・相違点を探り、系統的な指導方法を模索することを計画している。

## References

- Anderson, N.J. (1991) "Individual Differences in Strategy Use in Second Language Reading and Testing" *Modern Language Journal*, 75:iv. 460-472
- Baker, L and Brown, A.L. (1984) "Metacognitive Skills and Reading." *Handbook of Reading Research*. Ed. P. David Pearson. Longman
- Barnett, M.A. (1988) "Reading through Context: How Real and Perceived Strategy Use Affects L2 Comprehension" *Modern Language Journal*, 72:ii. 50-162
- Block, E. (1986) "The Comprehension Strategies of Second Language Readers" *TESOL Quarterly*, 20. 463-494
- Carrell, P.L.(1989) "Metacognitive Awareness and Second Language Reading" *Modern Language Journal*, 73:ii. 121-134
- Carrell, P.L. and Pharis, L. (1989) "Metacognitive strategy training for ESL reading" *TESOL Quarterly*, 17. 553-573
- Devitt, S.(1997) "Interacting with Authentic Texts: Multilayered Processes" *Modern Language Journal*, 81:iv. 457-469
- Devine, J.(1984) "ESL readers' Internalized Models of the Reading Process" *On TESOL '83*. Ed. Jean Handscombe, Richard Orem and Barry Taylor. TESOL. 95-108
- Dunkel, P. (1991) "Listening in the Native and Second / Foreign Language: Towards an integration of Research and Practice" *TESOL Quarterly*, vol.25:3. 431-457
- Goh C. (1997) "Metacognitive Awareness and Second Language Listeners" *ELT Journal* 51:4. 361-369
- Lund, R.J. (1991) "A Comparison of Second Language Listening and Reading Comprehension" *Modern Language Journal*, 75:ii. 196-204
- McDonough, S. (1995) *Strategy and Skill in Learning a Foreign Language* Arnold,
- Nisbet, J. and Shucksmith, J. (1986). *Learning strategies*. London: Routledge and Kegan Paul.
- O'Malley, J.M., Chamot, A.U. and Kupper, L. (1989) "Listening Comprehension Strategies in Second Language Acquisition" *Applied Linguistics*, 10:4. 418-437
- O'Malley, J.M and Chamot, A.U. (1990) *Learning Strategies in Second Language Acquisition*. CUP,
- Oxford, R.L (1990) *Language Learning Strategies* Heinle & Heinle Publishers,
- Palmer, D.J. and Goetz, E.T. (1988) "Selection and use of study strategies: the role of the studier's beliefs about self and strategies' in C.E.Weinstein, E.T.Goetz, and P.Alexander. (eds) *Learning and Study Strategies: Issues in Assessment, Instruction, and Evaluation*. Florida: Academic Press
- VanderGrift, L. (1992). "The Comprehension Strategies of Second Language (French) Listeners." Diss., Univ. of Albert
- 船津久美 (1996) 「日本人高校生の読解力とメタ認知能力の関係」中国地区英語教育学会研究紀要26. 1-8

## Appendix

次の記述は、英語を聞き取るときについて、あなたの気持ちをたずねるものです。例にならって、それぞれの記述に対して賛成か反対か、自分の気持ちに当てはまる番号に○をつけて下さい。あまり深く考えず、感じたままに答えて下さい。

あなたの組・出席番号を書いてもらうのは、3回ある調査の答えが同じ人のものであることを確認するためのもので、調査で個人名がでることは一切ありません。

中・高 年 組 番

### 英語を聞き取るとき

	全く		どちらで		全く	
	賛成	賛成	もない	反対	反対	反対
1.心の中で単語を考え、つづりを思い浮かべる	1	2	3	4	5	
2.聞こえた英語を日本語に直す	1	2	3	4	5	
3.聞こえた単語から、意味を自分で作りなおす	1	2	3	4	5	
4.聞こえた語・文をを頭の中で映像としてイメージする	1	2	3	4	5	
5.次にどんな内容が来るか予測することができる	1	2	3	4	5	
6.主要部分とそれを支える詳しい部分との違いがわかる	1	2	3	4	5	
7.文章中のすでに出てきた内容と、次に出てくる内容の 関係がわかる	1	2	3	4	5	
8.文章を理解するために自分の過去の知識や経験を使う ことができる	1	2	3	4	5	
9.ある事柄が理解できているか、いないかがきちんとわかる	1	2	3	4	5	

### 英語を聞くとき、困ってしまうことは

	全く		どちらで		全く	
	賛成	賛成	もない	反対	反対	反対
10.メモを取ると、情報をうまく処理できない	1	2	3	4	5	
11.音でなじみのある単語でも意味を思い出すのが遅い	1	2	3	4	5	
12.文字で見るとわかるのだと聞くと、何の単語かわからない	1	2	3	4	5	
13.個々の単語はわかるが全体の意味がわからない	1	2	3	4	5	
14.集中力がちょっと切れたら残りはもうわからない	1	2	3	4	5	
15.意味を考えていたら次の部分を聞き逃してしまう	1	2	3	4	5	
16.聞こえた単語や、意味のかたまりを思い出せない	1	2	3	4	5	
17.英語がひとまとまりに聞こえて、意味の固まりや 文の形がつかめない	1	2	3	4	5	

### 英語を聞き取るとき、わからない事柄があると

	全く		どちらで		全く	
	賛成	賛成	もない	反対	反対	反対
18.聞き続けて、先にに行けば解明されるはずだと なんとか手がかりを探そうとする	1	2	3	4	5	
19.文脈から単語や句の意味を推測する	1	2	3	4	5	
20.わからない箇所があると、すぐ次の箇所がさらに それに関する情報を提供してくれるかどうか注意して聞く	1	2	3	4	5	
21.その箇所を考えて、あとは何となく聞いてしまう	1	2	3	4	5	
22.集中力が途切れることがあるが、すぐにまた もとに戻そうとする	1	2	3	4	5	
23.あきらめて、聞くのをやめる	1	2	3	4	5	

### 英語を聞き取るとき、効果的に聞くために、特に意識を集中させることがらは

	全く		どちらで		全く	
	賛成	賛成	もない	反対	反対	反対
24.個々の語の発音	1	2	3	4	5	
25.個々の単語の意味をわかること	1	2	3	4	5	
26.文章全体の意味をつかむこと	1	2	3	4	5	
27.個々の文の文法的な構造	1	2	3	4	5	
28.その話題について、自分がすでに知っていることと 関係づけること	1	2	3	4	5	

29.あとで辞書で調べるため、文章中の特定の

単語を覚えておくこと	1	2	3	4	5
30.内容の詳しい部分	1	2	3	4	5
31.文章全体の論の進め方	1	2	3	4	5

英語を聞いて内容を理解したり、思い出したりするのに有効な方法は

	全く		どちらで		全く
	賛成	賛成	もない	反対	反対
32.知らない単語は無視する	1	2	3	4	5
33.メモを取る	1	2	3	4	5
34.つなぎの言葉 (But, Then など) を認識すること	1	2	3	4	5
35.音の高低 (イントネーション) に注意する	1	2	3	4	5
36.意味を推測すること	1	2	3	4	5
37.状況や主題を頭の中で映像としてイメージすること	1	2	3	4	5
38.解釈にすでに自分の持っている背景知識を利用すること	1	2	3	4	5

英語を聞き取るとき、難しいと思うのは

	全く		どちらで		全く
	賛成	賛成	もない	反対	反対
39.単語の発音	1	2	3	4	5
40.単語の意味がわかること	1	2	3	4	5
41.単語のつながりが, ひとつかたまりになって聞こえること	1	2	3	4	5
42.文法的な構造	1	2	3	4	5
43.その話題についての自分の背景知識を利用すること	1	2	3	4	5
44.文章全体の意味をとらえること	1	2	3	4	5
45.文章全体がどんな論の進め方をするかとらえること	1	2	3	4	5

自分の知っている人の中で、英語を聞いて上手に理解する人は

	全く		どちらで		全く
	賛成	賛成	もない	反対	反対
46.単語の意味がわかる	1	2	3	4	5
47.単語の発音ができる	1	2	3	4	5
48.文章全体の意味をとらえることができる	1	2	3	4	5
49.単語の意味を推測することにすぐれている	1	2	3	4	5
50.文における文法構造がよくわかっている	1	2	3	4	5
51.文章中の情報に、自分がすでに知っている知識を加えていくことができる	1	2	3	4	5
52.内容の詳しい部分に、焦点を当てることができる	1	2	3	4	5
53.文章全体がどんな論の進め方をするかとらえることができる	1	2	3	4	5